

<今回>329回目 2023年5月29(月)14時~17時 601会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p449、9行目、右の(B) より

<前回>328回目(23-5-15)出席者9名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-5-15)のまとめ(清水)

2) 10月までの予定表(清水)

A 報告 九州年号の一つ、「法興年号の32年」は異常に長い、同時に、「白鳳年号」も長い。前日関西の正木氏が多元の会定例会にリモート講師として講演された資料に白鳳年号はなぜ長かったかという骨子があったので、そこだけ紹介する。①サチヤマが返されたのは筑紫都督府の長官として大宰府に唐の羈縻政策として返された。②半島では勝利者の新羅にも鶏林都督府がおかれ、唐の真意を悟った唐羅戦争がはじまり、一進一退、最終的には唐は引き揚げた。③大宰府付近にいた郭務棕もひきあげた。④壬申の乱671年、天武の勝利、都督府長官のサチヤマ配下の最大の豪族となって畿内地方を統治した天武と一体になり、天武の死とともに消滅した。唐の監視下にあったので、白鳳年号の変更は出来なかった。この④以下は正木氏の独自論で理解しがたい。

が

C 読書 p449 9行目、右の(B)から

- (1) (B)の①は428年。倭王の讚か珍のときだ。従者50名を伴って百済にやってきた。②608年隋の文林郎裴清、倭国への使者として我が国の南を通る。この間180年の空白がある。この空白は批判の欠如で、編者金富軾の目に、史料が存在しなかっただけで、交流の事実はあったに違いない。③新羅本紀、百済本紀に6世紀の対倭記事がまったくないのは、事実の欠落ではなく、史料の欠落なのである。任那日本府の記事がないから、史料がないから、その存在は架空とはとても言えない。
- (2) 統一新羅は百済、高句麗を滅ぼして、百済高句麗の資料を引き継いだ。が、戦乱で資料は多く散逸していた公算が高い、金富軾は統一新羅を滅ぼした高麗の史官であり、百済については2重の影響を受けている。
- (3) 日本兵国に還らん 三国遺事に融天師彗星歌がある。新羅真平王(579~631)の時代、3人の花郎が山に遊びに行こうとして、夜空を見たら、彗星が心宿(星座の一つ)の方向に行くのを不吉として遊行を取り止めようとしたら、融天師が、これは日本兵が国に還らんとする兆候だから新羅にとって幸いとする予言とした。新羅王は歓喜して、遊行を続けさせた。①これはこの時代に長年日本兵が新羅の一部を占拠して、永く新羅の患いになっていた。②日本兵という言葉を使っている。倭国ではない。
- (4) 「日本」という言葉は「ひのもと」と読むが漢字の音は「にほん」または「につぼん」である。倭国は大陸の資料が列島の民族を呼ぶときの名前である。唐の則天武后が701年日本国を承認した。新羅本紀には670年倭国が日本と改名したとして、朝鮮史料にはその区分に670年を用いている。日本書紀では継体天皇の崩の年次に百済本紀より取りて文を作るという。高麗其の王安を殺す、日本の天皇太子皇子俱に崩薨。

2

6月12日(月) 14時から17時 601会議室

6月26日(月) 14時から17時 602会議室

7月10日(月) 14時から17時 602会議室

7月24日(月) 14時から17時 602会議室